

平成 26 年 9 月 25 日

## 防災訓練講評

こんにちは 副校長の平野です。

今日の訓練はあいにくのグランドコンディションで室内の訓練になりました。本当であれば外へ集合するのですが。

実際に逗子のハザードマップの中では、逗子高は危険な地域には入っていません。

しかし本当に私たちが逗子高にいるときにそしてグランドコンディションのいいときに想定した大きさの津波が来るのでしょうか。そんなことはないですよ。

あの東日本大震災のときには想定外、想定外という言葉が飛び交っていました。私たちには「本当だったら」とか、「想定をして」などということは本当の災害が起きたときには言っていられなくなります。

今日の訓練も雨なんて想定外、本当だったら、グラウンドへなどと考えてしまいがちですが、こういう状態でもこの訓練は大事な訓練です。

なにがいつ起きるかわからない。そのようなことを意識しなければならないのが今日の訓練だと思います。実際とは違うからと考えるのではなくて災害が起きたときの心構えを改めて意識してほしいと思います。

ご存知でしょうか、あの東日本大震災で石巻の大川小学校では大きな被害がありました。避難が遅れてしまったのです。多くの小学生や職員(先生たち)がなくなりました。その小学校と川一本隔てた中学校の校長先生がその大きな被害を目の当たりにして次のことを言っています。これは被害を受けたからこそいえる心構えです。私たちは今日この防災訓練をすることとで心構えを持つ大切さを意識しましょう。

災害時とるべき行動……「心の防災袋」とその先生は呼んでいます。自分なりに言葉のもつ意味を考えてみましょう。自分で考えることが大切です。

- (1) 周りが逃げなくても逃げる。
- (2) 専門家が大丈夫といっても危険を感じたら逃げる。
- (3) 悪いことはまず知らせる。
- (4) 地震は予知できると過信しない。
- (5) 「以前はこうだった」にとらわれない。
- (6) 「もしかして」「念のため」を大事にする。
- (7) 災害時には空気を読まない。
- (8) 正しい情報・知識を手に入れる。

皆さんこの心構えは命を大切にすることを考えたものです。命がなければ何も始まりません。命さえあれば、生きていれさえすれば、何とかなるのです。

ですから、災害時に自分の命を守るため自分には何ができるか考えてみてください。

本日はあいにくのグランドコンディションで実際に災害が起きたときの訓練とは違います。しかし、天気がいいときに災害が起こるわけではありません。そのときが来たらどうしたらいいか先ほどの校長先生があげていた八つのこと「心の防災袋」について意識してみてください。自分が自分の命を守ります。

私の話は以上です。